

第103号
2010年9月1日発行

愛道

あいどう



テーマ

「こころ」

社会福祉法人足羽福祉会

<http://www.asuwafukushikai.jp>

引き継がれるこころ 福祉人育成に向けた新たなる旅立ち

本年の5月1日付けで、理事会の承認をもって、滝波博純に代わり高村昌裕が足羽福祉会理事長に就任いたしました。ここで新旧理事長からごあいさつを申し上げます。

退任の「ごあいさつ」



本当に永年にわたり、ご厚情ご支援をいただき、ありがとうございます。ありがとうございました。お付き合いの中で、いろいろなことが教えられ、また、課題を与えていただき、多くの取り組みができたことが何よりの励みでした。お陰をもって、これからも更なる進歩を続けていくことを確信しています。生活の基盤の安定と幸せが永久に進められますよう、地域の皆様と共に信頼される法人であり続けることを祈って、退任のお礼といたします。ありがとうございます。

平成22年5月
前理事長

滝波 博純

新任の「ごあいさつ」

この度、足羽福祉会理事長という大役を仰せつかることになりました。法人創立以来42年、職員数が300人を超え、800人近い利用者様へのサービスを提供するにいたる、この法人を担っていることに、身の引き締まる思いをいたしております。何とぞ皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。さて、多くの福祉系の学生さんと同じように、私も20年ほど前の学生時代に、援助を必要とされる方々へ、さまざまな形でボランティアや実習を体験しました。重い障害がありながら地域で一人暮らしをされている方々への生活支援、視覚障害を持つ方々のマラソン伴走やスキー合宿、海外旅行の同伴、24時間型訪問介護現場での実習、障害児の夏休み一時預かりサークル活動などなど。それらの体験を通して、私は多くの福

社従事者やボランティアの方々と出会い、言葉を交わし、障害があってもなくても当たり前に生きていける社会（ノーマライゼーション）の実現がいかに大切であるかを肌で感じたものです。しかしながら、今、ノーマライゼーションが実現したかという点、まだまだ課題もあります。特定の場所・設備で行う福祉から地域の中で行う福祉へ、集団への指導・援助から一人ひとりに寄り添い、尊厳を保つ本人主体の福祉へと、明らかに社会の価値観は転換してきています。少なくとも「福祉が特別なもの」という感覚はなくなってきたように思います。一方で、認知症やさまざまな障害のある方々への援助方法は、医学や現場での臨床知見の向上によって、より専門性が求められてきており「特別な福祉」の重要性も痛切に感じております。

つまり、人としての当たり前の（ノーマルな）感性と専門性に基づく特別な（スペシャルな）技術、両方の質を高めていくことが、我々福祉従事者に求められていると思うのです。こうした「福祉人」育成こそ、我々足羽福祉会がめざすところだと考えております。

まだまだ未熟者ではございますが、利用者の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様と同じ目線で私どもの理念追求をめざし、この地域に「足羽福祉会があつてよかった」と思っていただけのように、誠心誠意取り組んでまいります。どうぞよろしく願います。

平成22年5月
理事長

高村 昌裕



夏祭り

足羽学園
足羽更生園



足羽ワークセンター
足羽利生苑



足羽東保育園



愛全園



目次 もくじ

- 2 理事長 新任・退任のごあいさつ
- 4 足羽東保育園
思いやりの芽生え
- 6 足羽学園
リーダーの背中 ～先輩から後輩に受け継がれるもの～
- 8 足羽更生園
新人 ～悩み・奮闘・喜び～
- 10 足羽ワークセンター
☆こころをこめてとどけます☆ ～「おいしい」その一言のために～
- 12 愛全園
心の扉
- 14 足羽利生苑
人生の先輩方からの教え
- 16 平成22年度 足羽福社会 交流会アルバム
- 17 平成21年度 決算報告
- 18 愛のささえ



表紙について

「ほら、見つけたよー。」
2人の笑顔のような、すてきな秋がみなさんにも訪れますように…。

足羽ワークセンター 長田 真紀

思いやりの芽生え



「思いやりのある子」とはどんな子ども？思いやりの心はどのように育っていくの？

今回は、Aちゃんの『人とのかかわり』の中で育ってきた心の道筋を紹介합니다。

安心できる存在

0歳で入園したAちゃん。当初はなかなか保育園や保育士に慣れず、泣くことも多く、抱っこやおんぶをして過ごしていました。しかし、

足羽東保育園では、いろんなかかわりから思いやりの心を育てています



特定の保育士がスキンシップや十分な愛情を注ぐことで次第に慣れ、保育士にも心を開くようになりました。

遊んでいても不安になると保育士を探し、しばらく膝に座って心が満たされると、また遊び始めていました。

『いつでも自分を受け入れてくれる』という心の基地があることで、安心してきていたのだと思います。

心を包み込む

2歳になる頃には、自我が強くなり、我慢ができず泣いて思いを通そうとしたり、友達が嫌がっているも平気でおもちゃを取るなど「自分が一番」の子でした。どこか、気持ち満ち足りていない様子も、トラブルが絶えませんでした。

子どもの発達過程において自己中心的な行動は当たり前のことで、成長を喜ばしく思う反面、荒々しい行動に、どうすれば穏やかになるのかと、Aちゃんとのかかわりに悩みました。また、いつも叱っていることも良くないと思い、担任同士でよく話し合っていました。



赤ちゃん体操、心と体でスキンシップ

考えたことは『まずは、Aちゃんの気持ちを全て受け止め理解してあげよう、心が満足すると人を思いやる気持ちも生まれるのでは』ということでした。トラブルが起きたときは、

行動の理由を聴いたり「Aちゃんは今こうしたかったんやね。」と気持ちをくみとったりしました。また、優しい声かけや抱きしめなど、Aちゃんが、優しさを肌で感じられるようにかかわりました。

次第にAちゃんの心に変化が見られるようになり、とっさに友達のおもちゃを取っても、相手の顔をうかがうように見たり、保育士が話すと素直に返してあげたりなど、優しい姿も増えました。

見て学ぶ

3歳では、友達の遊びに興味をもち始めました。友達を作り上げた作品を、うらやましさからわざと壊してしまったり、一緒に遊びたいと思っても、その気持ちの表し方がわからず、友達が嫌がるようなことをして自分への注意をひこうとすることも、度々ありました。

『二度、友達と距離を置き、Aちゃんに仲間遊びを見せよう』と思い、Aちゃんの行動が荒々しくなったときは、保育士と一緒に遊びを見ることにしました。皆が話をしながら楽しそうに遊んでいる姿を何度も見て

いるうちに、どうやって仲良く遊ぶのか、友達を受け入れていくか、Aちゃん自身が感じ取るようになってきました。相手の思いに気づけるよう、友達が作った物を壊したら、友達はどうな気持ちになるかなども、一緒に考えていきました。友達の様子をじっくり見ること、仲間入りの仕方

相手に与える心

4歳になると、友達とのさまざまな遊びを楽しんだり、いくつものトラブルを体験しながら『自分がこうすると

相手はこんな気持ちになるんだ』ということにも気づき始めました。自分の思いだけを言うのではなく、友達の話や気持ちも受け入れて遊ぶことで、仲良く遊べる喜びを知り、いきいきとした表情をしていました。

赤ちゃんへの愛情も育つて欲しいという思いから、小さい子との交流も取り入れられました。食事のお世話をしたり、一緒に手をつないだりすることから、赤ちゃん

への愛着が深まり、自分から優しくかかわっているから抱っこしてあげるとよく笑い、その笑顔を見て「かわいい」とうれしそうにほっぺをさわるなど、とても微笑ましい姿でした。

友達の中の自分

現在のAちゃんは、相手を思いやる優しい言葉がしぜんに出てきます。友達が

折り紙の折り方が

わからず困っているとき「こうやって折るんやっ。Bちゃんならできるやろ。」と、自分で折ってしまうのではなく、友達が自分で折れるよう、折り方を教えてあげたり、思いの違いで言い合いになっても「じゃ、ジャンケンしよつか。」と解決の方法を提案

したりなど、友達思いの姿に感動させられます。0歳児からの集団生活でAちゃんの心は大きく育ちました。



声をそろえて読み、おもしろさを共感

子どもが生まれてすぐ、大人のかかわりによる思いやりの育みは始まっているのです。また「思いやりの心」は、日常生活の中で、いろんな物や人のかかわりを通して培われていきます。

楽しいこと辛いこと、我慢することなど、子どもの心に寄り添いながら、共に心を育てていきたいと思えます。

子育て広場のお知らせ

平成22年度 今後の予定

- | | | |
|----------|-----|------------|
| 10/5 | (火) | 子ども動物園 |
| 11/17 | (火) | 秋の自然遊び |
| 12/22 | (水) | クリスマスツリー作り |
| H23.1/19 | (水) | ふれあい遊び&試食会 |
| 2/3 | (木) | 節分 |
| 3/3 | (木) | ひな祭り |

地域の入園前のお子さんをお招きし、毎月楽しい遊びや行事を催しています。ぜひ、遊びに来て下さいね。



子ども動物園



節分

※写真は平成21年度の様子です。

みんなの広場

リーダーの背中

先輩から後輩に受け継がれるもの

リーダーがいなくなる不安

足羽学園は、小学校の低学年から高校3年生までと養護学校を卒業し成人の福祉施設に空きが出るのを待っている方まで、幅広い年齢層の方たちが利用しています。

どこの社会でも、人が集まるところでは、その集まった人たちの中からリーダーとなる人物が出てくるものです。また、先輩から受け継がれるよき伝統や、スピリッツ（精神）も必ず存在しているでしょう。

足羽学園の生活でも同じような現象が見られています。

今回は中学校3年生になったMさんの心の変化から感じたことを紹介します。

同法人の足羽ワークセンターに移ったことです。

Mさんは約2年前から足羽学園に入所しています。羽学園に入所して、友達と遊ぶことも大好きですが、内気でおとなしい性格の男子でした。

私たち職員は、Mさんがあまりにもおとなしい性格なので、自分の感情を表に出せるよう支援していかなければ…と考えていました。

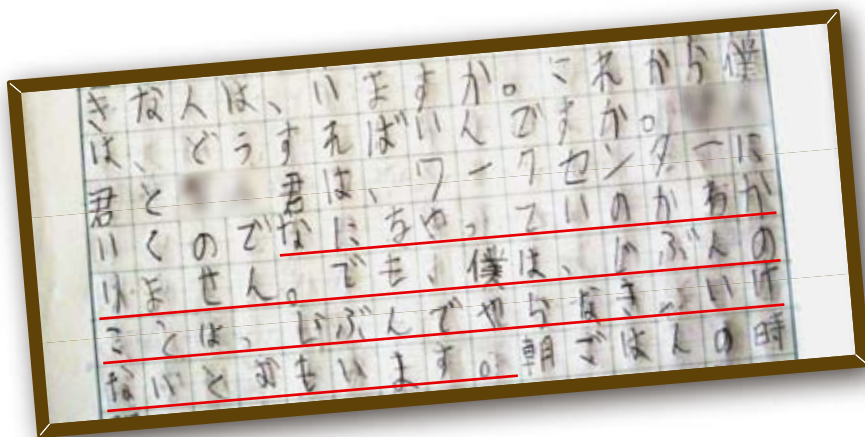
そんなとき、Mさんにとってショックな出来事がありました。

それは、昨年度まで足羽学園のリーダー的存在だった2人の男性利用者の方が高校卒業と同時に、揃って

ある日の決意

Mさんはその2人を、お兄さんのように慕っていたので「これから僕はどうすればいいんですか?」「あの2人がいなくなったら僕は何をすればいいのですか?」と職員との交換日記に書いてくるほど、寂しさと大きなショックを受けていたのです。

ある日の交換日記の中に「なにをやっているのかわかりません。でも、僕は、じぶんのことは、じぶんでやらなきゃいけないとおもいます。」という文章が書かれていました。



それからのMさんには別人かと思う程の変化があったのです。

自分のことは自分で



「面倒くさいけど、終わったときは気持ちいい!」

Mさんは、脱いだ服を部屋に置きっぱなしにし、同じ服を洗濯しないままに着続けていることがあり、清潔な服で過ごすことができないように支援が必要でした。ところがある日「自分で洗濯がしたいです。洗濯機を使わせてください。」とMさんが自ら職員に伝えてきたのです。

それから毎日、自分の服は自分で洗濯して、自分で干して、自分でたたんでタンスに片づけています。

※注（足羽学園の利用者の方の洗濯物は、基本的には職員がまとめて大型洗濯機で行います。しかし自立に向けた支援の一つとして、自分でも洗濯ができるように家庭用の洗濯機を2台設置しています。）

仲間を思いやる心

中庭でボール遊びをしていたときです。

ある男子利用者の方にボールがぶつかり、その男の子は驚きと痛みで、中庭の隅にうずくまり、みんなと遊



大好きな先輩ととても楽しそうに遊ぶMさん(右) (撮影 H21,11)

ばなくなっていました。ほかの利用者の方はあまり気にすることもなくボール遊びを続けていましたが、Mさんが「ちょっと話してくる。」とうずくまっている男の子に駆け寄っていったのです。

受け継がれる財産

Mさんは自らがお手本となる行動を示したり、足羽ワークセンターに移った2人の行動をまねたりして、ほかの利用者の方にいろいろなことを伝えてくれています。

このような行動を見てみると、先輩の行動が後輩に受け継がれていくという、素晴らしいサイクル、伝統があるのだと感じます。

内気で、自分から行動す

ることがほとんどなかったMさんの心に、こんなにも変化を与えたのは、これまでのリーダー的存在の利用者の方が残っていたスピ

みんなの広場

足羽学園 夏の風物詩

命のいとなみく

毎年夏になると、カブトムシのつがいを足羽学園に届けてくださる方がいらつしやいます。それは、一昨年まで足羽学園を利用されていた利用者さん(地元

たメスのカブトムシを自宅に持ち帰り、ご自宅で飼育され、成虫になった子孫を届けてくださっているそうです。

の施設に移られました)のお父さん、山口昭秀さんです。

実に12年以上もの命のいとなみを続け、山口さんは利用者の皆さんに命の大切さ、素晴らしいさを伝えてくださっています。

山口さんが平成10年に足羽学園の敷地内で、たまたま捕ま



えさおいしいかな？



12年前の遺伝子を持っています。

新人 〜悩み・奮闘・喜び〜

平成22年4月より足羽更生園に配属された新任職員
のフレッシュな心、奮闘ぶ
りについて、数か月が経っ
た今、仕事を通して感じて
いることなどをインタビュー
しました。

平成22年度新任職員



井上理恵



出口美咲



松岡大二郎

「足羽更生園を 選んだ理由は？」

私の母が障害者施設で働
いており、幼いころから母の

職場に行く機会があり、障害
者の方と触れ合うことがで
きたからです。そして、母か
ら心をこめて利用者の方と
接すれば、気持ちが変わり、
こちらが思わずうれしくな
るような反応が返ってくる
ことやそのときの喜びを教
えてもらったからです。

(出口)

私は、アイビー医療福祉
専門学校に在学中、実習や
ボランティアで足羽福祉会
にお世話になりました。そ
の時に、知的障害のある利
用者の方の純真な心や、か
かわる楽しさを知りました。
また、職場の雰囲気、先輩方
の利用者の方と接する姿勢
を見て、私もここで働きた
いと思ったからです。

(松岡)



今では、会話が弾んでくるとみんなが集まってくれます。

私は、祖母が福祉の仕事
をしていて、興味を持った
のがきっかけです。そのこ

とから、学生時代に養護学
校のボランティアをやりは
じめるようになり、知的障
害者施設で働きたいと思
うようになったか
らです。

(井上)

「今の悩みは？」

利用者の方の
思いもよらない
行動や私たちが
危険と思う行動
が「どのような
思いからきてい
るのか？」その
背景を感じ、理
解することの難
しさを感じてい
ます。

(出口)

に築けていないのではな
いかと思うことがあります。
先輩職員の方の
信頼関係が、
利用の方と

まだ心を開いてくださら
ないと感じる利用者の方
もいらっしやいます。

(井上)

利用者の方が急に怒った
ような表情をされると、何
か失敗したのか、不安にな
ります。怒った原因もわか
らないと、次はどうしたら……
と心配になってしまいます。

(松岡)

「新人の気づき・ 奮闘と喜び」

まず、利用者の方の名前
を覚えるのが大変でした。
そして、一人ひとりの利用
者の方の気をつけなければ
いけないことがわからず、
利用者の方をびっくりさせ
てしまったこともありまし
た。そんな時は、先輩職員が
助けてくれ、私が対応した
ときは違う利用者の方の
落ち着いた反応に「すいなあ
「信頼関係ができているん
だなあ」と感じました。

そして、利用者の方が、どんなことが苦手で、どんなことが好きなのか早く覚えなければと思いました。担当職員からの引き継ぎ簿、支援の取り組み記録などを読むことから始め、先輩職員の接し方を見習おうと利用者の方と何気ない会話をしているときも、どんなかわり方をしているのか意識して見ました。

そうすると、先輩職員は利用者の方に合わせ、口調を変えたり、好きな話題に合わせたりしていました。急に興奮して怒りだしてしまったり利用者の方でも、『まず止めようとするのではなく、気持ちを受け止めようとする姿勢が大事なんだ』とわかりました。

そんな気づきを意識して、少しずつかわりをもっていくことで、食事の介助をさせていただくとき「嫌だ」と言っていた方が、食べてくださるようになりました。

かわりをもてばもつほど利用者の方との信頼関係は築けていけるのだとうれしくなりました。

(井上)



口腔ケアを大切にしています。

最初のころは、私たちが声をかけても応じていただけない利用者の方、私たちに何かしてほしいと伝えるに來られる利用者の方(話すことが苦手)で服を引っ張るだけの方)の要求がわからず、気持ちに伝えさせていたことができなかったです。そんなときは、正直落ち込みましたが「焦ることはない」

「できることをがんばろう」と新人同士話し合い、自分たちのできることをがんばることにしました。

まず、朝の時間は掃除をがんばって居室をきれいにする、活動が終わる夕方の時間は、絵本が好きな方に絵本を読んで差しあげることにしました。

(出口・松岡)



絵本を読む時間を大切にしています。

か」と私たちの出勤日を気にしてくださったり、少し緊張がほぐれてきました。

私たちも少しずつ利用者の方との信頼関係の築きを感じられるようになると、以前は声をかけても応じていただけなかった利用者の方が、私たちの声かけにも応じてくださるようになりました。

「今の心境は？」

数か月がたつと、利用者の方から先にあいさつをしてくださったり「明日はくるん

これから、苦勞もありますが、支援を通しての実りも多く感じるようになります。利用者の方との信頼関係を築くことは、なによりも大切なものです。これからも大事に育んでいきます。

(新人職員一同)

みんなの広場

作業風景紹介



完成まであと少しです。

足羽更生園では、作業活動として、マット編みをしています。できあがった作品は、販売もしています。



1人ひとりの個性的な作品

マットの端をとめる作業をしていただけのボランティアの方を募集しています。

連絡先・足羽更生園

担当・渡辺／工藤

電話0776-41-3120

☆「こころ」をこめこめこびこびけます☆

「おいらに😊」その一言のために



向上を目的として、福井県庁横、県議会館に「県議会食堂あすわ」がオープンしました。
 おかげさまで1周年を迎え、利用者の方、職員ともにお客様に喜んでいただけるよう営業しています。

笑顔でおいしく☆

「いらつしやいませ！」
 大きなあいさつとともに店員の動きが慌ただしくなり
 ます。「ご来店ありがとうございます。ご注文お決まり次第、お伺いいたします。」と元気よく接客をされているのは、102号でも紹介させていただきました足羽ワークセンターの寺野佐央里さんです。

平成21年度6月より、利用者の方の働く機会の提供と、一般就労に向けた技術

「県議会食堂あすわ」に入店すると一番に目に入るの
 は、接客をしている利用者
 の方の笑顔です。オープン
 当初は、緊張からか言葉遣
 いや態度にもぎこちなさが
 感じられましたが、今では
 その緊張も和らぎ丁寧な接
 客をしています。
 では、どういったことに
 気をつけているのか聞いて
 みました。



接客中も必ず笑顔です☆

調理でおいしく☆

提供している料理の中に、
 利用者の方が実際に作った

ここに来た最初のころは
 とても緊張し、うまく話せる
 か不安がいつぱいでした。今
 はお客さんと話すことが楽
 しくできています。笑顔が得
 意なので、その笑顔でお客さ
 んが「また来たい」と思っ
 てくれたらうれしいです。

寺野 佐央里

ものもあります。
 例えば、定食についてくる
 小鉢の料理。その小鉢は主に、
 寺野ひと美さんが味付けを、
 村岡眞美さんが盛り付けを、
 担当されています。
 そのことについて、お二人
 に聞いてみました。

実際にお客様の口に入
 るものを作るので、毎日緊
 張しています。調理員さん
 に味見してもらう前に、何
 度も何度も自分で味見を
 しながら調理していきます。
 少しでもおいしいと言っ
 てもらえるように作りた
 いです。

寺野ひと美



味付けは特に慎重です。

盛り付けをするときは
 まずはキレイにキレイに
 することを意識しています。
 お客様が見たときに「な
 んじゃこりゃ…」と言われ
 ないように。うまく出来た
 ときのお客様の顔を想像
 して盛り付けています。

村岡眞美



お客様の笑顔を考えながら…



みんなでおいしく☆

「県議会食堂あすわ」では調理・接客の支援として調理員も配属されています。利用者の方とともに「おいしい」をつくるためにどういった工夫や、支援をしているかを、山崎・宮下調理員に聞いてみました。



利用者の方も職員も協力しています。

山崎：利用者の方には本当に料理を楽しんで作っていただけたらと思います。支援をしています。楽しんで作った料理と作らされて作った

料理との味は格段に違いますね。

宮下：そうですね。料理を作るときは、必ず作り手のおもいが入ります。

厨房内でも殺伐とした雰囲気の中ではないです。おいしい料理は作れません。利用者の方も職員も良い雰囲気の中で調理することで、みなさんが「また来たい」と思える食堂にしたいですね。

山崎：利用者の方が全力で作った料理を提供し、おいしいと言っていただけのことがいちばんの喜びです。利用者の方も自分たちが作るとなると、責任をもつて作ります。その姿勢が大切なのではないのでしょうか。責任はおお客様へのおもい、そういう風に私は考えています。

宮下：仲良く作る料理はおいしいものですし、あたたかい感情やお

もいが入った料理は、やはり何よりもおいしいと思います。

調理員

山崎 よし子

宮下 富恵子

今回取り上げた「県議会食堂あすわ」では、接客や調理を通して『こころ』のあり方、あり様を利用者の方に伝えられています。

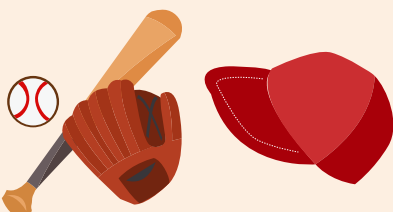
利用者の方も職員も料理を提供する中で『こころ』を形に変え、おもいを伝えていきます。

「元気なあいさつや盛り付け、味付け。そのすべてに、お客様に「喜んでいただきたい」というおもいがこめられています。

そして、お客様の「おいしい」その一言をより多く頂けるよう「県議会食堂あすわ」は、これからも『こころ』をこめて営業を続けていきます。

みんなの広場

頑 張 れ ! ホ ワ イ ト シ ャ ー ク !



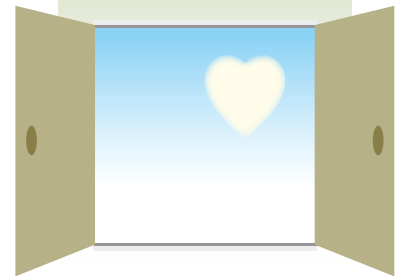
おめでとうございます♪



平成22年7月18日、足羽ワークセンターの利用者の方のソフトボールチーム「ホワイトシャーク」が、ウィングカップ(知的障がいのある方が出場するソフトボール大会)に出場しました。チームメイト一人ひとりが協力しチーム一丸となり試合に臨みました。その中で、今回初出場の坪田洋樹さん(27歳)が、各監督推薦表彰で選出されました。今年10月には秋の大会が開催予定です。「ホワイトシャーク」の活躍に乞うご期待!



心の扉



愛全園では『利用者の

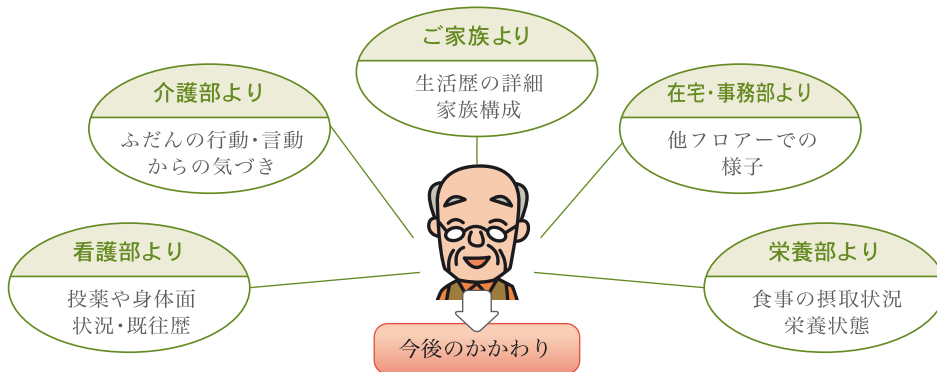
方に安心してその人らしく生活を送っていただけるように』との思いから、それぞれの部署の職員が集まり事例検討会を実施しています。

担当職員が中心となり、過去・現在の事実に基づいた情報から、今後のかわりや、サービスのあり方について話し合います。この検討会を通して、必ず気づきがあり、職員のかかわりが変化していきました。今回は、これまでの取り組みの中の一例をご紹介します。

これまでのYさん

Yさん(82歳)は、入所当時ご夫婦で入所され穏やかに過ごされていきました。しかし、奥様が亡くなられたころからでしょうか。次第に怒りっぽく、感情が不安定になることが増えていきました。特に、食事の配膳やお手拭きの準備、ロビーに設置してある予定表の記入など少しでも時間に遅れると、大声でひどく立腹されました。なぜ、そこまで。日課や時間へのこだわり“があるのかわからぬまま、表情をうかがい気分を損ねないように接する日々が続きました。

Yさんの気持ちや歴史などを、みんなで共有



見えてきた鍵

そんなとき、職員の中からYさんの検討会を開催しようという声があがりました。

検討会の中で見えて

きたのは、たくさんのヒ

ント、そして誰も知らない

Yさんの姿でした。

Yさんは、小さい頃

にお兄さんを亡くし、

以降4人兄弟の長男

として一手に責任を

背負ってこられたの

です。とくに食事に対

し、ひもじい思いをさ

せたくないという思

いが強かったようです。

仕事に対してプロ

意識が強く、社長と意

見が対立し喧嘩をす

ることや、休憩もせず

仕事をすることもあつ

たそうです。定年後、

より怒りっぽくなつ

てきたということも

わかりました。

人の役に立つことが何よりの喜び・生きがいであり、仕事やご家族への責任感から“日課や時間へのこだわり”を強くもっておられたのだと確信することができました。

この確信と反省点、Yさんの歴史をふまえ、愛全園全体でご自身のこだわりである日課や時間に配慮しました。また、今まで以上にいさつやねぎらいの言葉をかけ、意識してかわりを多くもつことで、少しずつですがYさんの心は安定していきました。



事例検討会の様子

お一人おひとりの

あしあと

検討会の中で垣間見たYさんの新しい顔や、入所されてからの日々は、Yさんの人生のほんの一部に過ぎません。しかし、その一部を知ること、Yさんへの意識は変わり、少しずつYさんの心に届くかわりができるようになってきたと思います。

施設では集団生活となるので、どうしても画一的になりやすく、個々の人生やこだわりについて、じっくりと振り返るといいうことが、忘れ去られてしまいがちです。

ですから、お一人おひとりが今まで歩いてこられた人生を知ることが、どれだけ大切なことかと改めて思うのです。

利用者の方々は、年齢を重ね体力面は低下してきていますが、人としての生きる力は底知れないほど持つておられるのだというのと、その力を尊重する視点をもつことがいかに大切かということを感じました。

施設は、利用者の方の生活の場です。入所前の生活が途切れることなく続けられるように、できるだけ早期に、その人をよく知り理解する必要があります。その上で、生活に添えるよう心くばりをしていくことが、愛全園としての役割です。

これからも、愛全園では事例検討会を継続し『ただ一人』のその人にとって『その人らしく、幸せを感じる生活』をお手伝いできることに誇りを持ち、日々工夫・実践していきます。



お手伝いをしてくださるYさん

みんなの広場

今月は「敬老の日」があります。そこで、改めて長寿の由来について紹介します。

【還暦】(かんれき)60歳

還暦で生まれた年の干支に還ってくるため、生まれ直すこととらえられて祝福します。

赤ちゃんの産着にちなんで赤いちゃんちゃんこと頭巾を贈り、長寿や無病息災を祈る風習となりました。また、赤は魔除けにも通じます。昔は人生50年と言われるほど短命だったので、還暦は大変めでたいことでした。

【古希】(こき)70歳

杜甫の詩句「人生七十古稀なり」に由来したものです。

【喜寿】(きじゅ)77歳

喜の草書が七十七に通じることから、77歳のお祝いは喜寿となりました。

【傘寿】(さんじゅ)80歳

傘の略字が八十と読めることから80歳のお祝いは傘寿となりました。

【米寿】(べいじゅ)88歳

米の字が八十八と書き、末広がりの八が重なり、おめでたい意味があります。

【卒寿】(そつじゅ)90歳

卒の略字が九十と書くことに由来しています。

【白寿】(はくじゅ)99歳

「百」から「一」を引くと白になることから、99歳のお祝いになりました。

今や日本は世界屈指の長寿国。元気で長生きしてほしいですね。また、長寿を祝福すると、周囲の者も長寿にあやかれるそうです。



現在、足羽福祉会には、百歳以上のご利用者様が6名おられます。

人生の先輩方からの教え

それは、日々、利用者の方と接する中で、気づかされ学ぶことがたくさんあります。それは、心に響くあたたかいいものでした。



「なつかしいの〜」しげんに笑顔 / 福井市 市波町『美山楽々亭』にて

家族のぬくもり

春を感じられるようになった3月のある日、足羽利生苑デイサービスセンターの利用者の方々と、福井市市波町にある『美山楽々亭』へ出かけたときのことです。施設中央の部屋に入ると、趣のある『いろり』が目にとびこんできました。とても興味深いものだったので、どのように使っていたのかを80代の利用者の方に聞いてみました。

「昔はガスがなかったでの。いろりて火焚いてご飯を作ったり、暖をとってたんやぎ」

「ほやほや。男の人はよこ座（いちばん奥の良い場所）に座るけど、女の人はなべ座（食事の準備をする場所）に座るで、忙しかったの。子どもん時は、食事中きちんと正座して静かに食べるよう、よう怒られたわ。食事が終わったら家族全員で集まって、いろりを囲んでおとぎ話や学校の話をしたもんやの。なつかしいの〜」

「いろりに使う薪も、学校終わったら親と一緒に山に取りに行ったの。うちの仕事やったで」

笑顔で話される利用者の方の話を聞いて、わたしはとても考えさせられました。

昔は現代のように電化製品はほとんどなく、一家にひとつのいろりで食事も暖もとっていたので、不便なことでもたくさんあったと思います。けれど、一つしかないいろりを囲むことで自然に家族団らんの時間がとれていました。

また一家のために一生懸命働く精神、目上の人（お年寄りや両親）を敬う心や、人としての礼儀・態度などのしつけも、一緒に過ごす時

間があったからこそ、親から子へ厳しく確実に伝えることができたのではないのでしょうか。

時代は変わり、生活スタイルも便利になりましたが、それに伴い、家族と過ごす大切な時間を共有することが、昔よりも少なくなつたと感じます。利用者の方の会話から、家族のあり方をもう一度見つめ直し、家族間の絆を深めていきたいと思えました。

なんでも教えてあげるさ〜



「もったいない」

ある日の利用者の方の会話です。

「戦時中は物がなかったでの。苦手な食べ物があっても残さず食べたもんや。今はたくさん食べ物を毎日のように捨てて、もったいないの」

「鉛筆一本でさえなかなか買ってもらえず、みじかくなるまで使ったんや。今ではこの鉛筆は誰が作ったのかさえ考えることなく捨ててしまっ。物のありがたみがわかる人は少ないかもしれんの。」

『もったいない』という言葉にハッとしました。私たち職員は利用者の方とふだん接している中で、物を大事に使うことの大切さを教えていただいているのです。

ある利用者の方の服の裾の部分が、黒い糸で繕われているのを見つけてきました。良く見ると、

両方の裾と丈の部分も同じように直されていました。「お

ばちゃん直したんや」と、利用者の方はくしゃくしゃの笑顔で自慢げに話されていました。古くなったからすぐ捨てたり、新しい物を買ったりするのはなく、ひと手間加えて長く使い切ることの大切さを感じました。

また、多量のチラシを使って、利用者のみなさんでくずかごを作ってくださいました。このくずかごは、デイサービスで毎日使用しています。



簡単にできるの～

夫一つでチラシも便利なのに生まれ変わります。

古くなって使いにくそうな財布やかばんも、大切に使われています。その方の思い入れもあるでしょうが、物があふれるこの時代では、なかなか真似のできないことではないでしょうか。

昔は物がなく苦勞の多い世の中でしたが、不平不満を言う人は少なく、我慢をする根性をみながつけていたと、利用者の方はおっしゃいます。生活は豊かになっても、先人の強い精神は忘れずにいたいものです。利用者の方は年齢を重ねることだけでなく、生きることを習得、体験し、生きる知恵を身につけておられる「人生のすばらしい先輩」です。その先輩方から学ぶ「日本の心」をしつかり受け止めて引き継ぎ、今後の人生の糧にして、あたたかい心を持ち続けていきます。

みんなの広場

こんな人いますよ



本谷家全員集合!! 前列は公男さん(父)と成美さん(母)。後列左から翼さん、真心さん、紅葉さん、優華さん、明日香さん。

足羽利生苑で勤務している矢内優華さん(旧姓・本谷)。映画「のだめカンタービレ最終楽章 後編」の完成記念企画「ベートーベン交響曲第7番」演奏コンテストに一家7人で出場し、最優秀賞に輝きました。家族全員で一致団結し行った演奏は、たくさんの人に感動と元気を与えてくれました。

矢内さんの頑張りは、足羽利生苑でもたくさんの方の利用者の方を励まし、笑顔を引き出し続けています。



フジテレビより 演奏コンテストの表彰式 平成22年4月

平成22年度 足羽福祉会 交流会 アルバム 4月～7月

～こ・こ・ろ ときめく 施設間交流～

4/6(火)

お花見



5/6(木)

いも苗植え



5/29(土)

ホット作りケーキ



6/26(土)

折り紙



7/5(月)

七夕



平成21年度社会福祉法人足羽福社会の財務諸表を公開します。

平成22年5月22日開催の理事会・評議員会に承認されたものを簡略化した内容となっております。

貸借対照表 (平成22年3月31日現在)

科 目	金 額(千円)	科 目	金 額(千円)
資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	1,011,848	流動負債	162,351
固定資産	2,159,859	固定負債	108,073
基本財産	1,455,689	負債の部合計	270,424
その他の固定資産	704,170	純 資 産 の 部	
		基本金	155,158
		国庫補助金等特別	802,905
		その他の積立金	438,786
		次期繰越活動収支差額	1,504,434
		(うち当期活動収支差額)	(158,457)
		純資産の部合計	2,901,283
資産の部合計	3,171,707	負債及び純資産の部合計	3,171,707

脚注 減価償却費の累計額 1,687,138(千円)
徴収不能引当金の額 888(千円)

事業活動収支計算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

科 目	金 額(千円)
就労支援事業収入	60,725
就労支援事業支出	46,130
就労支援事業活動収支差額	14,595
事業活動収入	1,977,533
事業活動支出	1,828,056
事業活動収支差額	149,477
事業活動外収入	377,665
事業活動外支出	375,859
事業活動外収支差額	1,806
経常収支差額	165,878
特別収入	27,699
特別支出	35,120
特別収支差額	△7,421
当期活動収支差額	158,457
前期末繰越活動収支差額	1,358,630
当期末繰越活動収支差額	1,517,087
その他の積立金取崩額	253,160
その他の積立金積立額	265,813
次期繰越活動収支差額	1,504,434

資金収支計算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

科 目	金 額(千円)
就労支援事業収入	60,725
就労支援事業支出	46,130
就労支援事業活動資金収支	14,595
経常収入	2,106,451
経常支出	1,880,285
経常活動資金収支差額	226,166
施設整備等収入	27,682
施設整備等支出	65,242
施設整備等資金収支差額	△37,560
財務活動収入	253,160
財務活動支出	278,656
財務活動資金収支差額	△25,496
当期資金収支差額計	177,705
前期末支払資金残高	773,365
当期末支払資金残高	951,070

【本部】

(寄付・寄贈)

藤島電気工事(株) 渡辺冷凍食品(株)

北陸銀行東支店 (株)福井建材社

(株)神久商店 (株)ヤマシタコーポレー

ション 福井市医師会臨床検査セ

ンター (株)キトー建築事務所 高

橋商店 (有)けんこや (有)エフオー

システム 畑中厨房(株) (株)高島松

文堂 村中建設(株) データシステム

(株) あいえんらいふ合同会社

エースクリーニング みのり産業(株)

たこや食品 長谷川彰 福井ヤク

ルト販売(株)

【足羽東保育園】

(ボランティア・交流・訪問)

上文殊駐在所 文殊苑 上文殊公

民館 上文殊幼稚園

(研修・実習・見学)

玉木優 吉田陽香 足羽第一中学校

【足羽学園・足羽更生園】

(寄付・寄贈)

中西正志 福井漬物 松岡地区女

性連絡協議会 竹村勉 前田利丸

西山亮一 和田始

(ボランティア・交流・訪問)

キリスト教婦人部 すずらんの会

美山中学校吹奏楽部 連合福井

松岡地区女性連絡協議会 杉森妙子

堀忠夫 豊岡紀子 中谷まゆみ

竹村勉 後藤勇一 大野志保子

田中泰希 横山朝日香 山中辰彦

堤大典 朝井美冴 佐藤沙耶 林

徹郎 片岡道子

(研修・実習・見学)

アイビー医療福祉専門学校 齊藤

真有 山口寛子 藤田侑奈 横山

朝日香 三ツ谷淳志 三谷拓磨

平鍋早紀 渡辺邦太 野本奈未

前澤はるか 吉川実香 坂井友美

橋爪睦 藤部弘幸

【足羽ワークセンター】

(寄付・寄贈)

高島豊子 渡辺冷凍食品(株) 児玉

印刷(株) 安田かまぼこ (株)福井建

材社 窪田プラスチック 福井漬物

(ボランティア・交流・訪問)

高村智子 松原智子 畑節代 傾

聴ボランティア「よつば」

(研修・実習・見学)

アイビー医療福祉専門学校 嶺北

養護学校 福井東養護学校 福井

大学付属養護学校

(寄付・寄贈)

むぎや蒲鉾 堀川百美枝 (株)ムラ

タ 中村義子 青柳信男

(ボランティア・交流・訪問)

啓蒙保健衛生推進員 啓蒙ボラン

ティア 啓蒙民踊クラブ 福井農

林高校 東新保なかよし会 福井

市赤十字奉仕団 小木大正琴クラブ

斉藤さよ子 花亀会 山岡玲子

樋口のり子 太田美代子 小木孝

子 本多春子 奥村美枝子 有田

芙美子 中嶋安子 坂本幸子 滝

波博純 渡辺邦太 藤田侑奈 高

澤比和 村山友美 野阪都 斉藤

房枝 佐々木円香 安永松子 門

前雄太 川崎やゑ子 中吉幸恵

藤田順子 前川昭子 山田淑子

(研修・実習・見学)

福井農林高校 福井商業高校 前

田亘史 埜尻麻衣子 渡辺邦太

和田真梨子 藤室あゆ美 藤田侑

奈 高澤比和 嶋田慎吾

【足羽利生苑】

(寄付・寄贈)

鍋島笹代 上田繁政

(ボランティア・交流・訪問)

福井市赤十字奉仕団 松宮あさ

子 村西ふじ子 賀川美智枝

本多幸雄 児玉美子 乗竹洋子

オカリーナポルテ 高橋雅子

林睦子 宇都宮友美 丸山美枝

子 鍋島笹代 吉野隆春 (創体

舞踊)真心流 内田容子 南直之

梯洋枝 梯美弥 小林慶由 松

井純子 中村諒平 (株)カワグチ

チアリーディングチームWEN

DYS 毘沙門太鼓 美山そば

元気の会 ひめ空間すずや 岡

保健康つくり会

(研修・実習・見学)

東海学院大学 足羽第一中学校

啓新高校 大野東高校

順不同・敬称略

▼今号の製作で、人の心の奥深さを
実感。福祉職員であることに感謝
です。 持田(保)

▼この夏はとにかく暑かった。皆さ
んお元気ですか? 杉本(学)

▼夏が暑いと果物が甘くなる?秋を
楽しみにしています。 吉野(更)

▼今回もバタバタとできあがった「愛
道」…。次回もこのころのこもった記
事を届けられたら良いな…。 松井(ワ)

▼はじめまして。103号から広報
委員になった長田(おさた)です☆
委員と協力して素敵な「愛道」をみ
なさまにお届けしていきますよう頑
張ります♪ 長田(ワ)

▼今年の「暑い夏に負けないくらい
熱い気持ちで」これからも「ホット」な
記事をお届けします。 羅川(愛)

▼暑すぎる夏を過ごして少々バテ
気味。みなさん体調管理に気を
つけていきましょ!! 栗波(愛)

編集後記

▼車のクーラーが壊れました。今
日も窓全開で走っています。 本田(愛)

▼たくさんの方のご協力のもと、
自身初の原稿が無事完成しま
した。感謝します。 中川(愛)

▼広報委員として初めて編集に
参加しました。皆さんの心に残
る広報誌となるよう微力なが
ら努めてまいりますので、よろ
しくお願ひします。 三上(利)

▼今年の夏も、とつても暑くてと
つても楽しい思い出たくさん
できました☆ 前田(利)

▼本号も「あい」に「みちみち」た
内容になっています。次号から
は編集作業に加わりますので
よろしくお願ひします。 江守(本)

▼最近、ハムスターを飼いはじめ
ました。命の尊さを改めて感じ
ています。ネコも飼っているだ
けに…。 蟻塚(本)

発行所

社会福祉法人 足羽福祉会

足羽東保育園・足羽学園
足羽更生園・足羽ワークセンター
愛全園・足羽利生苑

〒910-2178 福井市榎野町20-7
TEL(0776)41-3108/FAX(0776)41-3199
http://www.asuwafukushikai.jp

発行責任者 高村昌裕